

第2回水産業・漁村の多面的機能発揮の支援のあり方に関する検討会結果概要

- 1 日 時：平成27年5月18日（月）9時30分～11時40分
- 2 場 所：農林水産省第2特別会議室
- 3 出席者：別紙のとおり
- 4 概 要：

（1）水産庁漁港漁場整備部長の挨拶の後、八木座長により議事が進められた。

（2）事務局から資料1、2及び取組事例について説明があった。

（3）第1回検討会や行政事業レビューを踏まえた今後の支援の方向を検討する上での論点について議論を行った。出席者からの主な発言は以下のとおり。

- ・横展開をするためには、事業のホームページを強化することが必要不可欠と考える。
- ・「環境生態系保全」及び「海の安全確保」と「地域コミュニティの維持」をセットで取り組むことが非常に重要だと思う。
- ・評価することが相互学習の機能を持ち合わせており、横展開が図られる。自己評価を重視し、第三者の評価は、最後の評価である水産庁の段階で良いと思う。
- ・地方負担が出せないところもあるので、事業を継続できるようにすべき。現状の活動組織によって多面的機能が維持されており、活動組織数を減らすような見直しをして良いのか。
- ・多面的機能は定量的に評価しにくいので、定性的な指標を増やし、定性的なものを定量的に評価する仕組みを強化した方が良い。
- ・増えたものを評価するだけではなく、自然の中で減らさなかったことを評価することは大事な視点。
- ・どのような内容をどのような方法で発信していくかについて、もう少し明確に位置付けられれば良いと思う。情報を一元的に共有し、使えるプラットフォームを構築することが大事。
- ・海難救助は、漁業者がかなり危険を冒して出動し、漁を休まざるを得ず、重荷となっている現状を考えると、海の安全確保について、さらなる国の支援を強化していただきたい。
- ・成果目標において、成果だけ聞くのではなく、その間のプロセスやどれほどの努力をしたのか、エフォートをプラスして聞いた方が良いと思う。
- ・成功事例をつくることが非常に重要。成功事例によって、横展開が自ずとできるので、そうなるシステムづくりをお願いしたい。
- ・「国連ミレニアム生態系エコシステム評価」にあるとおり、漁業者が行う（食料などの）供給サービスや（水質浄化などの）調整サービスは国全体に関わること。多面的機能の本来の目的である生態系サービスという言葉を使用した方が良い。

（4）今後、委員や各方面からの意見を踏まえ、検討を進めることとなった。

水産業・漁村の多面的機能発揮の支援のあり方に関する検討会（第2回）
出席者名簿

検討会委員（五十音順）

鹿熊 信一郎	沖縄県海洋深層水研究所所長
桑原 久実	国立研究開発法人水産総合研究センター本部研究開発コーディネーター
佐藤 博	小泊漁業協同組合 代表理事組合長
玉置 泰司	国立研究開発法人水産総合研究センター中央水産研究所 経営経済研究センター 主幹研究員
八木 信行	東京大学大学院農学生命科学研究科 准教授
湯川 英俊	(株)NHKエンタープライズ制作本部 情報文化番組部長

水産庁（事務局）

高吉 晋吾	水産庁漁港漁場整備部長
中泉 昌光	水産庁漁港漁場整備部計画課長
南 克洋	水産庁漁港漁場整備部計画課課長補佐（企画班）
藤橋 孝	水産庁漁港漁場整備部計画課計画官
遠田 誠	水産庁漁港漁場整備部計画課専門官
片田 和孝	水産庁漁港漁場整備部計画課
佐倉 麻美	水産庁漁港漁場整備部計画課
横井 和枝	水産庁漁港漁場整備部計画課
吉川 千景	水産庁増殖推進部裁培養殖課